

学生を対象とした
一緒に考えよう「KOJICHUプロジェクト」

仮囲いデザインアイデアコンテスト

まちでみる建築現場はすべてが覆われた「わからない」世界。ものづくりはもっと楽しくてダイナミックな世界のはず。そんな現場の仮囲いを「装置」としてデザインしてください。アイデアが浮かんだら、友達と先生を巻き込んで参加しよう！

応募登録締切 平成30年12月10日(月)

作品提出締切 平成31年 1月21日(月)

※応募要項などの詳細は全国建設業協同組合連合会ホームページからダウンロードできます(右下のQRコード参照)

「KOJICHUプロジェクト」のポイント

建築的な思考を鍛えるのに役立つプロジェクト！

業界を代表する審査委員に評価してもらえる！

審査委員長：古谷誠章／建築家、日本建築学会会長、早稲田大学理工学術院 教授

審査委員：宮崎桂／日本サインデザイン協会会長、(株)KMD代表取締役

：大西麻貴／建築家、o+h共同主宰、横浜国立大学客員准教授

：五道仁実／国土交通省 大臣官房技術審議官

：北村知久／国土交通省 大臣官房建設流通政策審議官

：佐々木基／(一財)建設業振興基金 理事長

：藏谷伸一／全国建設業協同組合連合会 副会長

デザイン分野から建設業の魅力発信にアプローチ！

建設業と学生の距離を縮めて、ものづくりの楽しさを身近なものに！

デザインテーマ：「工事中と人々を結ぶ装置」 審査委員長 古谷誠章

とかく工事中の建物は仮囲いに囲まれ、足場や養生シートに覆われて中の様子を伺い知ることができません。でも昔は住宅街の中でも新築中の家の現場では大工さんの働く様子がよく見えて、子どもたちは時々大工さんにかんな屑や材木の切れ端なんかもらったりして、家が建ち上がるのを見るのがとても楽しみでした。



もう一度そんな工事現場がつかれないでしょうか？それが今回の課題です。

パリやウィーンの現場では現場内の常設の見学コースや展望台、また計画中の建物の外壁をかたどった実際の敷地での展示など、様々な魅力的な「工事中」に出会ったことがあります。

工事中の現場を包み隠すのではなく、日々建ち上がる建築の楽しさや力強さ、美しさを伝えるものにできないでしょうか。

そこに働く人々たちにとってはそれが晴れ舞台となり、それを見守る人々にとっては建築が刻々と変化し築かれて行く様子を観賞する観覧席となるようなアイデアを募ります。

グラフィックなどの単なる仮囲いのデザインを超えて、「工事中」と「人々」を結びつける「装置」のデザインを期待しています。

主催：全国建設業協同組合連合会

協賛：東日本建設業保証株式会社

後援：(一社)全国建設業協会、(一社)全国建設産業団体連合会、(一財)建設業振興基金、西日本建設業保証株式会社

問い合わせ先 104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 東京建設会館4F TEL 03-3553-0984

<http://www.zenkenkyoren.or.jp> kojichu-q@zenkenkyoren.or.jp

